

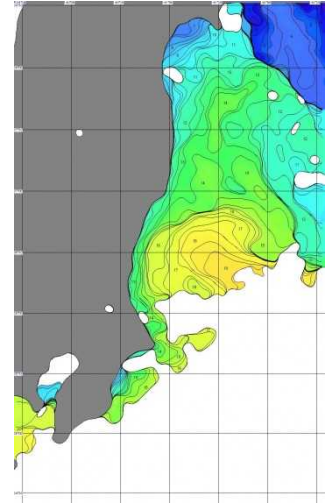
平成31年冬春期(3~5月)の沿岸漁海況予報

1. 海況の現況(2月)

調査船「いばらき丸」で2月上旬(5~6日)に行った海洋観測結果は、概ね全域で「平年並み~高め」、一部で「高め」の水温環境でした。また、会瀬・大洗定線の沿岸側では真潮(北向きの潮)が観測され、沖合側では逆潮(南向きの潮)が観測されました。2月の海況を暖水、中間、冷水パターンに分類すると、水温が高めの「暖水パターン」で推移しています。

右図は2月17日におけるNOAA人工衛星水温画像です。沿岸域に広く黒潮からの暖水が波及しています。

図 NOAA人工衛星水温画像
(平成31年2月17日)



2. 海況の見通し

予 測: 水温は引き続き「高め傾向」で推移する。

根拠①: 2月中旬現在、茨城県沿岸域に黒潮からの暖水が波及しています。

根拠②: 親潮第一分枝の先端は金華山沖に位置しており、それに連なる親潮系の冷水は常磐沖の暖水塊をかわし福島県海域の沖側を南下しています。そのため、本県沿岸域への冷水の影響は少なくなっています。

根拠③: 現在黒潮の八丈島付近に小蛇行部があり、これが東に進んで房総沖を通り過ぎ、3~4月頃に茨城県沖に暖水が波及する見通しです。

根拠④: 1~2月の海況パターンが暖水パターンであると、3~5月も暖水パターンとなることが多く、今年はこのパターンに該当しています。

3. 船びき網漁況の見通し

(1) コウナゴ

予 測: 漁模様は「不漁」

根 拠: 仙台湾~常磐海域全体におけるコウナゴ仔魚分布量は2月中旬時点で少なく、今後本県沿岸域の海況は、コウナゴの発生・来遊に不適な「平年より高め」の水温環境で推移する見通しです。

(2) オキアミ

予 測: 来遊量は「低水準」

根 拠: 今後本県沿岸域の海況は、オキアミの漁場形成に不適な「平年より高め」の水温環境で推移する見通しです。

(3) シラス

予 測: 漁模様は「好漁」(1,000ト以上)、初漁期は早め

根 拠: 今後本県沿岸域の海況は、シラスの成育・来遊に適した「平年より高め」の水温環境で推移するとともに、次の暖水波及は3~4月頃に発生する見通しです。また、6月まではマシラス(マイワシ仔魚)が混じると考えられます。

※ シラスについては、今後の海況や卵稚仔の分布状況をふまえ、4月に改めて予測を行う予定です。

(回遊性資源部 鈴木(船曳担当), 外山(海況担当))